

発掘ニュース

第 23 号

平成 元 年 8 月 5 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団
TEL 0246 (23) 9348

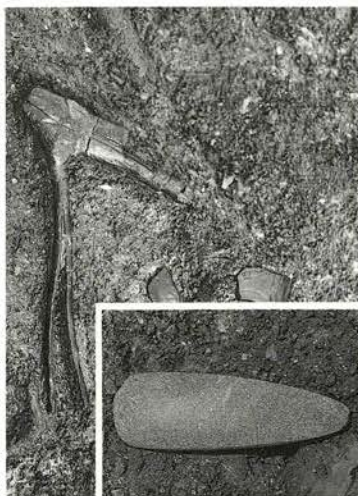
写真でみる みまやのれきし

くせはらたて ばんじょうちいせき
—久世原館・番匠地遺跡—

みまや
御厩に人が住み始め
たのは縄文時代の中頃
(約4500年前)です。

じゅうきよあと
住居跡は見つかって
ませんが、お墓と考
えられる円形の穴(土坑)
が見つかっています。
中には一緒に埋められ
た土器がありました。

【縄文時代のお墓】

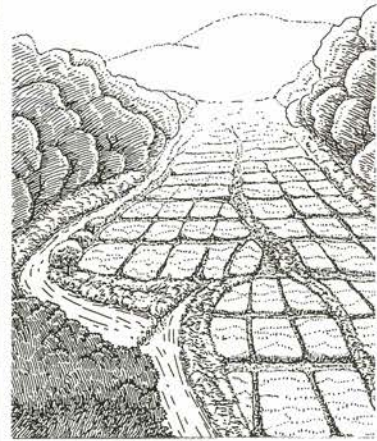
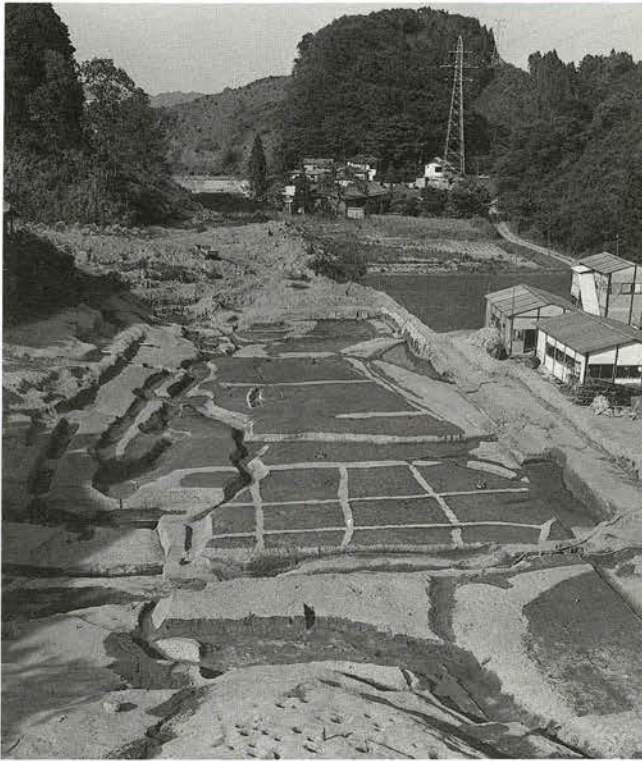


【石おのと柄】 石おのは、木の柄と組み合わさって使われます。



【縄文土器】 いろいろな形があり、その器面には、線を引いたり、粘土紐をつけたりと多種多様の文様がつけられました。

とじておきましよう



【水田の復元図】



【石庖丁】

【弥生時代の水田跡】 弥生時代（約2000年前）になると米作りの技術が伝わってきました。御厩に住んだ人々も、小さな沢を利用して田んぼを作りました。秋になると、石庖丁を使い穂首のみを穫り取りました。



【弥生時代のお墓】

弥生人は、死者を埋めるために甕や壺などの土器を使いました。

この方法は、一度死者を埋め肉をくさらせた後に、骨だけを取り出して埋めなおすもので、土器でふたをするのが普通です。



弥生土器の形は、基本的には、貯蔵用の壺、煮炊き用の甕も盛り付け用の高杯に分かれています。

【弥生土器】

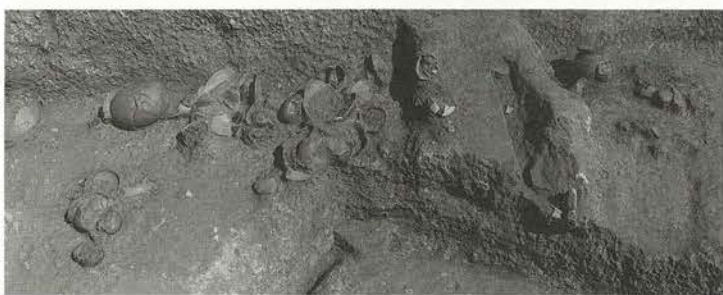
御厩の古代人は、山の南側斜面のわずかな平らな場所を利用して家を建てました。この家は、地面を掘り下げて尾根をかけた「たてあなじゅうきよ堅穴住居」と呼ばれるものです。

【堅穴住居跡】



家の中にはかまどがあり、その周りからは多くの土器が見つかっています。

【土器の出土状況】



久世原の山の尾根から石棺（古墳）が見つかりました。石棺は、板石を組み合わせて作られたものです。

【石棺（古墳）】



この土製のいがた鑄型に、溶かした銅を流し込んで、銅印や銅鏡が作られました。

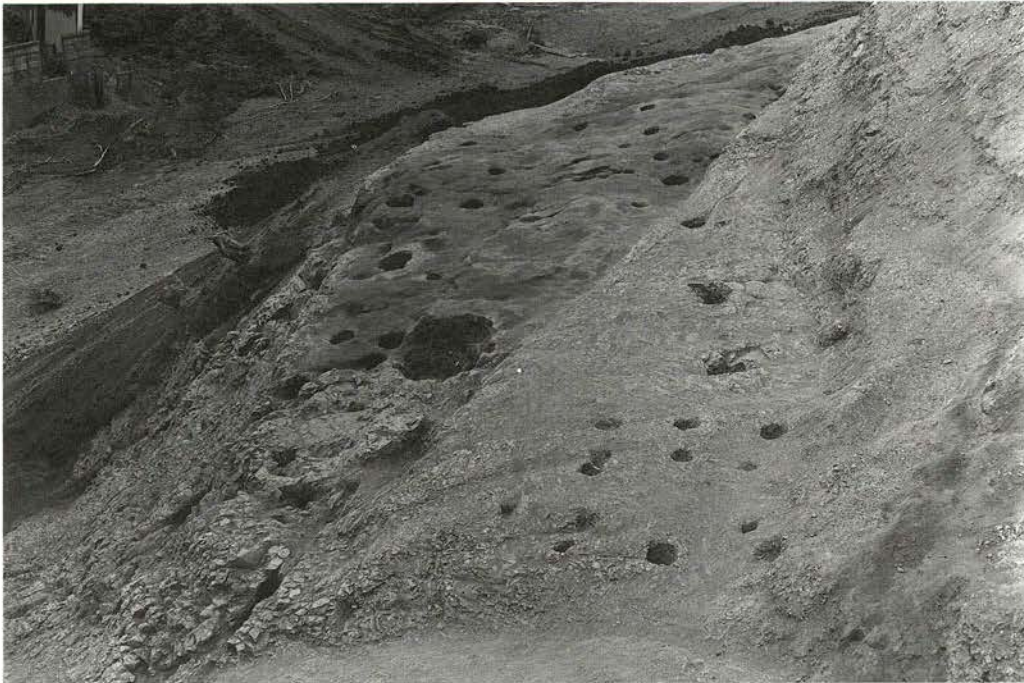
【銅鏡と銅印の鑄型】



赤色の素焼きの土器を「土師器」、固く締った灰色の土器を「須恵器」と呼びます。

【須恵器】





【曲輪と建物】 武士たちは、権力の拡大や自衛の防ぎよ施設として山城を造りました。久世原の山も、南側の斜面は、曲輪と呼ばれる平らな場所が無数に造られ、中には、柱の穴がみつき建物建っていたところもありました。



【井戸】 生活に必要な水を得るため木で囲った井戸が作られました。

生活用具として、焼き物やお椀などがあります。焼き物は、主に東海地方を中心として作られ、いわきまで伝えられました。お椀は、漆が塗られたもので、現在のものとかわりありません



【ゴミ穴（土坑）】 ゴミ穴からは、お椀やはしや骨などが出てきます。



【漆器と甕】